

## 次年度会費・役員補選などを議論しました

～道連第4回理事会・拡大役員新年会が開催されました～

1月19日、第4回理事会が中村理事（北大生協・専務理事）の議事進行で開催されました。

報告事項の①一般活動経過報告、②上期監事監査報告、③12月決算報告、④中札内生協、⑤協賛・講演、⑥北海道他からの通知等が確認されました。

議決事項は①福祉活動交流会、②業務委託契約の更新、③南医療生協訪問の参加募集、④NPO事務局長人事、⑤役員補選、⑥生協法見直し答申のヒヤリング会で、いずれも議決されました。

審議事項は①新年度スケジュール、②道連活動見直し検討委員会の中間報告、③新年度活動計画（骨子）、④「社会保障と税の一体改革」への対応、⑤原子力エネルギーをめぐる諸問題、⑥CANT署名第2弾でした。②～⑥は継続し5月理事会での議決を予定することとなりました。

尚、理事会終了後は会員生協拡大役員メンバーを含

め新年会が企画されました。上田元会長・高柳前会長や友誼団体及びIYC全国実行委員の賀川館長・太田原先生からスピーチがあり懇談しました。



拡大役員新年会で挨拶をする上田恒夫元会長

1月19日、賀川督明氏（IYC全国実行委員・神戸賀川記念館館長）をお招きし、拡大役員新年会の参加者の皆さんに『国際協同組合年』をテーマでご講演をいただきました。



協同組合の社会的存在の重要性を話す賀川督明氏

\*1月23日の日本農業新聞に掲載された内容が掲載されました。

互いを思い共に生きよう  
国際協同年の意義語る  
北海道生協連の会合で賀川督明氏が講演

「協同組合の父」といわれる賀川豊彦の孫、賀川督明氏が19日、国際協同組合年（IYC）の意義や進め方について、札幌市で講演した。協同組合の認知度向上などIYCの狙いをあらためて紹介し、「共に生きる」「痛みを分かち合う」といった進める上でのテーマを示した。

講演は、北海道生活協同組合連合会が開いた会合で行い、約30人が参加した。賀川氏は賀川記念館（神戸市）の館長で、IYCの全国実行委員も務める。IYCの取り組みでは大切な考え方として、「総合性」「共生」「痛みを分かち合う」といったテーマを紹介。「安全・安心があらゆる場面で語られるが、ほとんどが、私たちが忘れてしまっている、踏み合いられているのではないかと指摘。他者を意識することの重要性を説いた。

また、日本で自費者が年間3万人以上いることを挙げ、「私たちの隣には（心）痛みを持つ人がいるが、ほとんど日掃で癒していない。このことが自殺を生み出しているのではないかと強調。人の痛みを分かち合う大切さを話し、協同組合の理念である「一人は万人のために万人は一人のために」には、資源の共有に痛みを分かち合う精神が含まれるとした。

また、国連には「国際協同組合の10年」といった10年単位の取り組みもあると紹介し、「IYCも単年で終わりに、10年プログラムしよう」と訴えている」と話した。さらに、国連が今年を「すべての人々のための持続可能なエネルギーの国際年」にも定めていることから、IYCと併せた取り組みを迫る考えも示した。

## ◆生活クラブ生協◆ 講演会『T P P – 私たちは知る権利がある ～政府が語れないその本質に迫る～』

1月15日、道新ホールにて「T P P – 私たちは知る権利がある～政府が語れないその本質に迫る～」を開催しました。カナダの農業ジャーナリストであるブルースター・ニーン氏を招いての講演会だったのですが、開催の1週間前になってニーン氏は心臓の疾患によりドクターストップがかかり、来日不可能ということになってしまいました。



講演を代読するエップ・レイモンドさん。右は通訳で奥さまの明子さん。

しかし実行

委員会である「T P P を考える市民の会」（コープさっぽろ、生活クラブなどで構成）では、今こそ伝えなければならない！との信念で急ぎよ企画を差し替えて敢行をしました。そもそも、この企画自体昨年12月に出てきた話だったので、まさに「突貫工事の仕上げ段階で内容が変わった」ようなものでした。

それでも当日は370人以上の方が会場まで足を運んでくださり、この問題への関心の高さにあらためて気づかされました。

この日のためにニーン氏ご夫妻が送ってくれたメッセージ動画と、今回の講演を長沼メノ・ビレッジのエップ・レイモンドさんが（アドリブ入りで）代読するという企画でしたが、ニーン氏が、そして我々実行委員会が伝えたかった「政府が語れないこと」は、お伝えできたと思います。

## 帯広畜産大学生協

### 宮城県・名取市復興秋祭りへのボランティアに参加してきました！

11月3日、東日本大震災に関する支援活動の一環として開催された、宮城県名取市での『2011ふるさと復興秋祭り』に、帯広畜産大学と帯広信用金庫に協賛という形で、大学生協としてボランティアで参加しました。

当日は、大学から「全学農畜産実習」、「環境保全学農畜産実習」「植物生産学実習」で学生が育て、収穫したジャガイモ、豚肉、小豆などを使用して、クリームシチュー250皿、カレーライス250皿、お汁粉100食を調理し、提供しました。またジャガイモ（1Kg）を300袋配布しました。

生協からは、調理師の派遣や、調理器具の貸出、ゼオライトマスク600組を無償で提供しました。今回この活動を通して、被災地住民への復興に向けた取り組みを支援することができました。



11月1日、学生ボランティア派遣の出発式

北海道  
医療生協

## ★「おげんき会」クリスマスパーティーに61名参加！★

北海道医療生活協同組合の「くらしの助け合いの会『りよくあい』」で毎週火曜日午前11時から開いている「おげんき会」の年内最終イベントはクリスマス会です。

午前中は、老化防止に役立つ頭の体操や防犯に役立つ昔話と用具のお話を取り入れながらのマジックショー。コップの水が消えるマジックのネタを解説しながら、おむつにも使われている凝固剤の様々な使用方法や非常時の備えと携帯具、使い捨てカイロの上手な使い方などを教わりました。

昼食時は、毎週食事を作って頂いているボランティアのみなさんに感謝の花束贈呈！その後赤飯、サラダ、お吸い物とケーキで楽しいパーティー。

午後からは、参加者が自ら企画した仮装踊り。仮装グッズや衣装を持ち込みみんなで装いフラダンスの曲、北海盆踊りで輪になって踊り、笑いの絶えないパ

ーティーになりました。

最後に、おげんき会で行った病院職員による健康講話や血圧測定・体操、お誕生会やカラオケ、外出行事では温泉や食事会、さらには、依頼して来て頂いた民話の会や石鯛づくり、三味線、民謡、ウクレレ、ハーモニカ、アコーディオン、オカリナ演奏などのスライドを観て、

この1年間を振り返り、来年も元気で集まることを約束して終了しました。



ボランティアさんへ日頃の感謝を込めて花束贈呈